

# “新人” 高齢就労者 が増加、「自慢話」は 1回が原則



## 働

く高齢者が増えている。高齢者雇用安定法によって雇用確保義務がある65歳まで働く人は多いが、65〜69歳まで働く人も多い。2011年までは37%程度で推移していたが、2012年以降上昇に転じ、2024年は54・9%で、2人に1人以上が働いている。男性は62・8%、女性は44・7%。その上の70〜74歳でも35・6%に達している（内閣府「令和7年版高齢社会白書」）。

態度や振る舞いで周りの人たちに感謝の気持ちを示すことが大事。意識したいのが「オ」「ア」「シ」「ス」（おはようございます、ありがとうございます、定年を迎えても仕事ができるのは当たり前のことではなく、じつはありがたいこと」と語る。

その背景には経済的事情などもあるが、65歳以降はそれまでとは別の企業・職種で働く人も多い。高齢者専門の人材派遣会社である株式会社高齢社には平均年齢72歳の定年後の人が、ガス工事関係、マンション管理、スーパーなどで週3日程度働いている。社長の村関不三夫さんが新たな仕事先で働く場合の心構えで常に言っているキーワードは「感謝」と「謙虚さ」だ。「快く受け入れてもらうには

前職での経験・知識が豊富でも新入社員のもりであいさつは自分からしましょうと言っている。謙虚さについても、例えば、俺は部長だった、あるいは何々会社の役員だったなどと言いつつ、派遣先から使いにくいから勘弁してくれと言われてしまう人がいるという。そのため研修では「自慢話は1回まで」と言っている。

「自慢話をついしがちだが、1回ぐらいはよくても、何度も言うとうつらうつら自慢話や経験談は嫌みと受け取られかねないので、言わないように意識してほしいと伝えている」と語る。高齢になるとかくありがちな話だ。肝に銘じたい。

「自慢話をついしがちだが、1回ぐらいはよくても、何度も言うとうつらうつら自慢話や経験談は嫌みと受け取られかねないので、言わないように意識してほしいと伝えている」と語る。高齢になるとかくありがちな話だ。肝に銘じたい。